

# 「福島の子どもたちと教育現場の今」

～差別や偏見から負けない強い心を育てるために～

9月19日（木）

福島市立平野中学校 教諭 たけだしゅうじ 武田秀司さん

# 「あなたの身近にもいる LGBT」

～男女や LGBT だけじゃない！性のあり方は十人十色～

9月26日（木）

レズビ안의保健室の先生 いのうえすずか 井上鈴佳さん

## 2019年度 講座

～一人称で語る自分史～

# 生きること



# 「発達障害と生きる～当事者からのメッセージ」

NPO 法人 DDAC（発達障害をもつ大人の会）代表

ひろの 広野ゆいさん

10月2日（水）

# 「水俣をとおして社会とつながる」

一般財団法人 水俣病センター相思社 常務理事

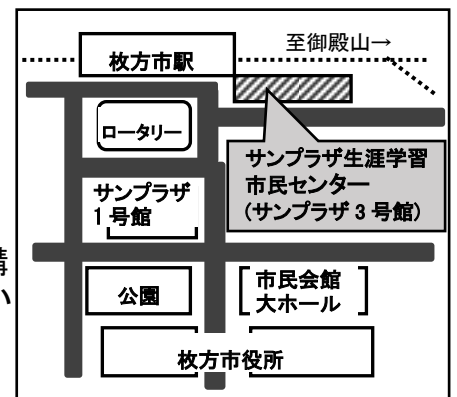
ながのみち 永野三智さん

10月9日（水）

- 会場 サンプラザ生涯学習市民センター 視聴覚室(サンプラザ 3号館 5階)
- 時間 各講座 午後2時～4時
- 定員 各講座80人
- 参加費 無料 ※1講座のみの参加もできます
- 参加申込 8月9日(金)から枚方人権まちづくり協会で、電話・FAX・電子メールで参加受付
- 保育 保育(各講座先着 10人まで、生後6か月から就学前児)、手話、要約筆記の必要な方は、各講座の開催日の1週間前までに申し込んでください
- 申込・問合せ先 特定非営利活動法人 枚方人権まちづくり協会

電話 072-844-8788 FAX 072-844-8799

Email hirakatajinkenkyokai@wing.ocn.ne.jp



主催 枚方市、枚方市教育委員会、特定非営利活動法人 枚方人権まちづくり協会

2019年度講座 「生きること」～一人称で語る自分史～  
講師からのメッセージ

第1回 9月19日(木)

「福島の子どもたちと教育現場の今」  
～差別や偏見から負けない強い心を育てるために～

福島市立平野中学校教諭 たけだしゅうじ  
武田秀司さん

「どうせ、うちら将来がんになんてしょ」中学生の女の子の何気ない言葉です。東日本大震災から8年が過ぎ、原発事故による放射能の不安や風評被害、県外避難者に対するいじめや偏見の問題など、話題になることは少なくなりました。しかし、福島の子どもたちの戦いはこれからだと思えます。

第2回 9月26日(木)

「あなたの身近にもいるLGBT」  
～男女やLGBTだけじゃない！性のあり方は十人十色～

レスビアンの保健室の先生 いのうえすずか  
井上鈴佳さん

中学校・高等学校の保健室の先生として勤務していた時に自分がレスビアンだと確信し、現在はパートナーとの幸せな毎日を送っています。LGBTや性的マイノリティは何も特別な存在ではないんだと、感じていただけの時間になればと思っています。大きな保健室にやって来たような気持ちになっていただけると嬉しいです。

第3回 10月2日(水)

「発達障害と生きる～当事者からのメッセージ」

NPO 法人 DDAC (発達障害をもつ大人の会) 代表 ひろの  
広野ゆいさん

「発達障害・発達凸凹」という言葉が使われるようになったのは、発達障害者支援法ができた15年ほど前からです。それまでは変な人、ダメな人といわれていた症状に名前がついたのですが、だからといって生きづらさが軽減したわけではありません。この見えない障害のしんどさがどこにあるのかを当事者の目線からお話します。

第4回 10月9日(水)

「水俣をとおして社会とつながる」

一般財団法人水俣病センター 相思社常務理事 ながのみち  
永野三智さん

私は思春期のころ、水俣病を自分の中でタブーにして生きていました。2003年、二十歳のころに、大好きだった書道の先生、溝口秋生さんの裁判を傍聴し、先生の苦悩を知り、衝撃を受けました。また、裁判に来ていた水俣の人たちが、悩み考えたり、普通に水俣病という言葉が出てくることに解放されました。いまは、「水俣病」を仕事にしています。

